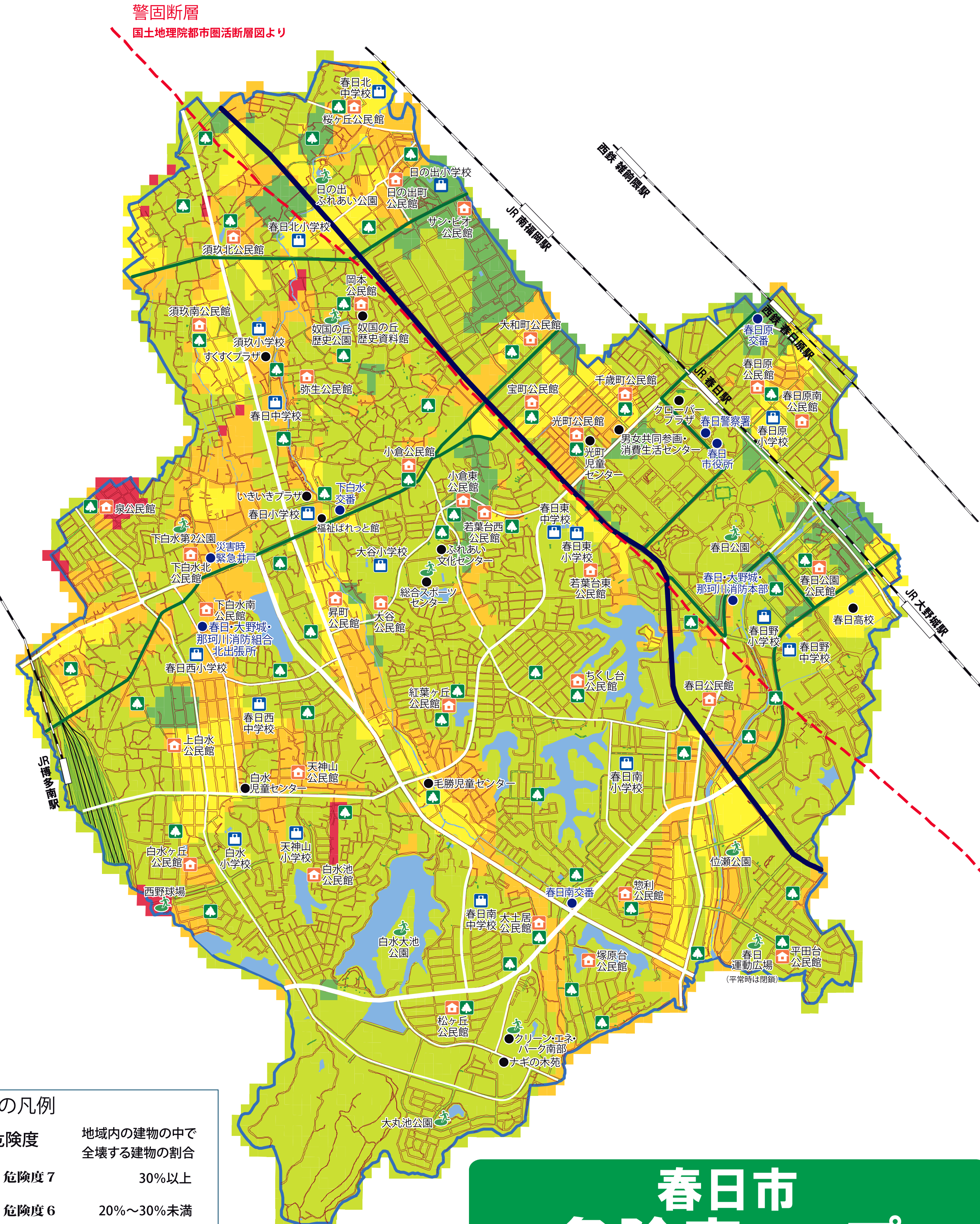
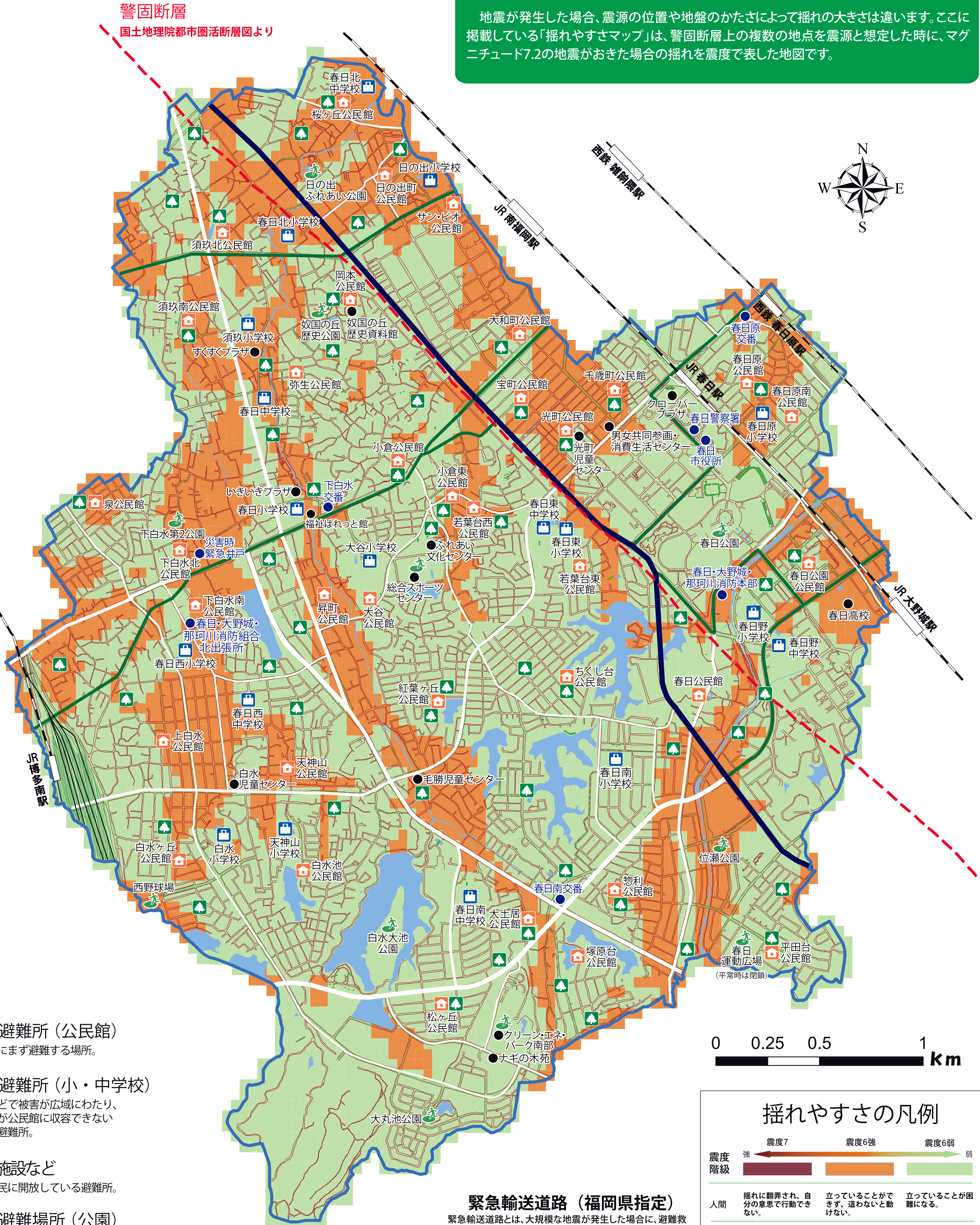


春日市 揺れやすさマップ

地震が発生した場合、震源の位置や地盤のかたさによって揺れの大きさは違います。ここに掲載している「揺れやすさマップ」は、警固断層上の複数の地点を震源と想定した時に、マグニチュード7.2の地震がおきた場合の揺れを震度で表した地図です。



凡例

- 一時避難所（公民館）
災害時にまず避難する場所。
- 収容避難所（小・中学校）
地震などで被害が広域にわたり、避難者が公民館に収容できない場合の避難所。
- 公共施設など
広く市民に開放している避難所。
- 一時避難場所（公園）
火災や小規模な災害のときに、一時的に避難する場所。
- 広域避難場所
大火災が発生して延焼拡大した場合に、熱や煙から避難する場所。

緊急輸送道路（福岡県指定）

緊急輸送道路とは、大規模な地震が発生した場合に、避難救助をはじめ、物資の供給、諸施設の復旧等応急対応活動を広域的に実施するため、非常事態に対応した交通の確保を図ることを目的に設定された道路です。

<第一次緊急輸送道路>
県が指定した緊急輸送道路のうち、県内外の広域的な輸送に不可欠な高速自動車国道、一般国道(指定区間)と高速自動車国道インターチェンジ及び輸送拠点等を結ぶ幹線道路のことを指します。市内では、福岡筑紫野線(県道31号線)が該当します。

<第二次緊急輸送道路>
県が指定した緊急輸送道路のうち、第一次道路とネットワークを構成し、市庁舎、警察署並びに消防署などの防災活動拠点となる施設を交互に接続する幹線道路のことを指します。市内では、すすく通り、春日横通り、春日南通りが該当します。

揺れやすさの凡例

震度階級	震度7	震度6強	震度6弱
人間	揺れに翻弄され、自分の意まで行動できない。	立っていることができず、道わないと動けない。	立っていることが困難になる。
屋内の状況	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。ドアが外れて飛ぶことがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
屋外の状況	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。複雑な形状のブロック壁も破損するものがある。	多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。複雑な形状のブロック壁のほとんどが崩れる。	かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。

警固断層による断層効果：断層周りの震度（揺れの大きさ）は、この想定よりも強くなる可能性があります。また、断層の直上では横ずれ破壊も加わる可能性があります。

危険度の凡例

倒壊危険度	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
危険度7	30%以上
危険度6	20%~30%未満
危険度5	10%~20%未満
危険度4	7%~10%未満
危険度3	5%~7%未満
危険度2	3%~5%未満
危険度1	3%未満

春日市 危険度マップ

「揺れやすさマップ」で表した揺れが各地で発生した場合、建物が木造か、そうでないか、また古いか、新しいかの違いにより倒壊する建物数が違ってきます。国が示した計算式により、地区別に建物倒壊の割合(倒壊率)を計算し、それを地図に表したものが「危険度マップ」です。これは、震度が大きい地域でも、新しく耐震性の有る建物が分散している地域では建物倒壊の割合が低く、震度が小さい地域でも、古く耐震性の無い建物が密集している地域では、建物倒壊の割合が高くなることを示しています。